

【ローマ法王（教皇）から授与された勲章】

先日、新しいローマ教皇を決める選挙「コンクラベ」がバチカン市国のシスティーナ礼拝堂を会場に行われ、ロバート・フランシス・プレボスト枢機卿が第 267 代のローマ教皇として選ばれました。教皇名は「レオ 14 世」と名乗ることが発表されました。

新教皇はアメリカイリノイ州シカゴ出身の 69 歳。アメリカ出身の教皇が誕生するのは初めてです。当館にはローマ法王から實が授与された栄誉ある勲章があります。今月はその勲章を“イッピン”としてご紹介します。

日本による朝鮮統治が始まり、当時の原敬首相はこれまでの強圧的な「武断政治」から「文化政治」へと転換させようと考え、實を朝鮮総督に就くよう説得します。原首相は在鮮外国人、特に外国人宣教師に対する対応に注力し、宣教師と積極的に対話・交流するよう實に求めています。

大正 8（1919）年朝鮮総督に就任した實は、日本の朝鮮統治における真相を特にも米国によく理解してもらおうと持ち前の語学力を活かし宣教師と語り合う場を設けています。いちどに 100 人以上もの宣教師を茶話会や晩餐会等に招きました。その結果、虚偽等に惑わされていた米国、諸外国において日本に対する誤解を解くことができました。在鮮基督教界の最長老であったウエルチ監督は、實の写真を肌身離さず常に持っていたと語られています。

（「斎藤實夫妻を偲ぶ」より）實がいかに米人宣教師からの信望が厚かったかを物語っています。そしてこれらの功績から、大正 11（1922）年 5 月、ローマ法王から『グラン・クロア・サン・シルベストル』勲章（大十字章）が授与されたのです。實 65 歳の時でした。この勲章は、カトリック教会の活動に貢献した人物を顕彰するもので、カトリック信徒以外も対象となっています。さらに 10 年後の昭和 7（1932）年には『グラン・クロア・ピーヌーフ』勲章（大十字章）が授与されています。

現在、展示館 1 階北側にて『グラン・クロア・サン・シルベストル』勲章を展示しており、来館者の注目を集めています。

（左）グラン・クロア・サン・シルベストル勲章（大十字章）

ローマ教皇から授与される騎士団勲章 5 つのうち 1 つ。名称は 4 世紀のローマ教皇、シルヴェステル 1 世に由来。中央に「聖シルヴェステル教皇」が描かれている。

【等級】

- ・大十字（大綬と星章）
- ・司令官（中綬・星章ありまたはなし）
- ・騎士（小綬）



（右）グラン・クロア・ピーヌーフ勲章（大十字章）

ローマ教皇から授与される騎士団勲章 5 つのうち 1 つ。名称は 19 世紀のローマ教皇、ピウス 9 世に由来。中央に「PIVS IX」の文字とそれを囲む「Virtuti et Merito(善行と功績)」が記されている。

【等級】

- ・頸飾（頸飾と星章）
- ・大十字（大綬と星章）
- ・司令官（中綬・星章ありまたはなし）
- ・騎士（小綬）



※勲章の名称は当館目録の記載（1973 年）のものとしております。